

# 自己評価表（平成30年度）

愛媛県立新居浜南高等学校

学校番号（6）

教育方針	個性豊かで広い視野を持ち、心身ともに健全な人間を育成する。	重点努力目標	1 主体的に学び、個性を磨き、自己実現に努力する態度を育成する。 2 挨拶等の礼儀や身だしなみを整え、基本的な生活習慣を育成する。 3 学校行事や部活動、奉仕活動の活性化により、心身を錬磨し、社会性を育成する。
------	-------------------------------	--------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
① 組織運営等	教職員間の共通理解	教育目標を達成するために、教職員間の共通理解を図り、円滑なコミュニケーションや連携・協力体制を構築する。	B	教職員間の共通理解は概ね図られている。教職員間のコミュニケーションや報告・連絡・相談・確認など連携と協力体制はできている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合学科という特性もあり、職員室に常駐する教員が少ない。グループウェアの活用を促進することで、情報の共有を図り、仕事の効率化を一層進めていく。</li> <li>○教職員間のコミュニケーションを一層密にすることで、よりよい人間関係の構築を図る。</li> <li>○仕事量の偏りを把握し、それを是正することによって「働き方改革」を推進していく。</li> </ul>
	会議の効率化	運営委員会や職員会議、各種委員会の円滑化を図り、効果的に運営を実践する。	B	運営委員会や各種委員会が適切に開催されており、会議は、円滑に効果的に運営されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験豊かな教員から若い教員への知識・経験の伝達を促し、「若い教員を育てる」という観点を重視する。</li> <li>○メンタルヘルスに対する共通理解を図り、ワークライフバランスを確立することで、公私に充実した生活になるよう努める。</li> <li>○リスクマネジメントに関する研修を充実させることで、生徒・教職員にとって安心・安全な教育環境を維持し、向上を図る。</li> <li>○魅力的な学校づくりに努め、学校生活の活性化を図る。</li> <li>○地域の人材を積極的に活用することで、教育内容の多様化・専門化と質的向上を図る。</li> </ul>
	危機管理意識の高揚	学校の安全管理に関する教職員の危機意識を毎月定例の職員会議において喚起する。	B	現在、7名の教職員防災士が本校に所属している。今年度は、「教職員防災士レベルアップ研修」に1名派遣するなど、防災・安全教育の推進に取り組み、危機管理意識の向上に努めている。	
	職場環境の整備	教職員の心身の健康に配慮された、能率よく勤務できる職場環境を整備する。	B	衛生委員会や管理職面接を適宜実施するなど、教職員の心身の健康について概ね配慮がなされている。今後、「働き方改革」をさらに進めていく必要がある。	
	南高満足度の向上	魅力ある学校づくりに努め、南高へ入学してよかったと思える生徒の増加を図る。	A	生徒・保護者・地域の方々からの学校への信頼度が向上しており、「南高満足度」も高い評価を得ている。	
② 教育課程・学習指導	教育課程の充実	各系列の特色を生かし、生徒の進路実現のために充実した教育課程を編成する。	A	地域共創系列がスタートし、生徒の興味・関心や多様な進路希望に応じた指導を行っており、高い評価を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合学科として、各系列の特徴を生かし、生徒の興味・関心を深化できるような取組を推進していく。</li> <li>○生徒の興味や関心、多様な進路希望に対応できる教育課程が編成できるように研究を継続する。</li> <li>○生徒の学習支援や各種資格取得、多様な進路希望が実現できるように、個別指導を体系的に充実させる。その際、仕事量に偏りができないように十分に配慮する。</li> <li>○課題テストや小テストの効果的な実施・評価方法を研究し、生徒の学力向上を図る。</li> <li>○「主体的・対話的で深い学び」の観点から授業改善を常に行い、授業の充実を継続する。</li> <li>○電子黒板やタブレットといったICT機器を積極的に活用する方法の研究を引き続き行う。</li> </ul>
	学習指導の充実	学習方法の指導などガイダンス機能の充実を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の確立を図る。	B	それぞれの進路目標や生徒の学習段階に応じた学習指導がなされており、学習習慣の確立が図られつつある。個別指導を行うなど、さらなる充実を図っていきたい。	
		課題テストや小テストを実施し、「やればできる」ことを生徒に実感させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	B	資格取得のための学習や課題テスト・小テストの実施するなど、各教科科目において、その特性に応じた指導がなされている。学習習慣の確立と基礎学力の向上に努めている。	
		生徒一人一人に対して、生徒の実態に応じた個別指導を徹底し、生徒の学力の定着と向上を図る。	B	生徒の学習段階に応じた丁寧な学習指導が行われている。学習に遅れのある生徒や資格取得等を目指し生徒に対して、補習・補充指導など個別指導を充実させるなど、丁寧な指導を行っている。	
授業の充実	基礎的基本的な知識・技能が定着するよう、分かりやすく興味を持って、集中して取り組める授業を工夫する。他教員の授業を相互に参観し、授業改善を行う。	A	各教科で教材を工夫するなど、生徒が興味や関心を持って授業に臨めるように努力している。ICT機器を積極的に活用することで分かりやすい授業が実践されている。		
③ 生徒指導	指導体制の確立	全教職員の共通理解の下、一貫性のある指導ができる組織的な体制を確立し、指導を行う。	B	生徒指導に関する指導方針を確立し、教職員全体で共通理解の下、公平で一貫性のある生徒指導を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各年次団や教員間で指導に偏りが出ないように、生徒指導の基本方針の共通理解を進めるとともに、生徒一人一人、個に応じた指導をより一層心がける。</li> <li>○基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻・欠席の減少に取り組む。</li> <li>○挨拶の意義や効用を生徒に理解させ、校外で明るい挨拶が聞こえてくる活気あふれる学校づくりに努める。</li> <li>○特に、自転車通学生の事故防止について、折に触れて説諭するとともに、命の大切さを理解させる。</li> <li>○ヘルメットの着用・あごひも締めなどの交通安全に対する意識を向上させるとともに、交通マナーを遵守するなど、規範意識の高揚を図る。</li> <li>○5分前登校を継続し推進することで、一日のスタートに余裕を持たせるとともに、交通事故防止も図る。</li> <li>○現在の落ち着いた学校の雰囲気を持するとともに、一層の向上を図る。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立	高校生らしい身だしなみで生活できるように、教育活動全般において継続的な指導を行う。	B	身だしなみ指導を定期的に行うなど、教職員が各場面面で適宜指導しており、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。	
		出席率の向上を目指し、遅刻や欠席の目立つ生徒への段階的指導を行うとともに、家庭や関係機関と連携し、生活習慣の改善を促す。	B	遅刻や欠席の目立つ生徒に対しては、担任や年次主任が中心となり、個別指導を丁寧に行っており、生活習慣も徐々に確立しつつある。	
		校外で活気ある明るい挨拶ができるようにホームルームや部活動等で指導を図る。	B	教職員からも積極的に働き掛けることで、明るく元気な挨拶ができる生徒が増えつつある。継続して指導を行いたい。	
家庭・地域との連携	本校の生徒指導の方針や取組について、家庭・地域・関係機関に理解していただくとともに、連携しながら指導を行う。	B	担任や年次主任は、家庭と密に連絡を取り、生徒指導について理解と協力を求め、共通理解の下、指導を行うよう努めている。		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
④ 進路指導	進路実現	生徒一人一人の進路希望の把握に努め、教職員の共通理解の下、3年間を見通した進路指導を行う。	A	3年間を通して、キャリア教育に関する諸行事が計画的に行われており、生徒の多様な進路希望に対応できる体制ができています。進路指導も生徒の個に応じた指導ができています。	○各年次やホームルーム担任に最新の進路情報を提供することで、生徒の多様な進路希望に対応できるようにする。 ○3年次生の進学や就職について、試験で課される面接や口頭試問、小論文等の指導を平準化し、一部の教員に負担がかからないように努める。 ○現在の進学補習の在り方や方法を検討し、より効果的で実効性あるものになるよう改善する。 ○教職員の進路指導に関する研修を充実させ、新しい入試制度に対応できる知識や情報を得て、生徒に還元できるように努める。
	面接指導の充実	就職試験や進学の推薦入試等に対応できるマナー指導や面接指導等を全教職員の理解と協力の下、実施する。	A	進路課と該当年次団が密接に連携し、早い段階から面接指導等に取り組んだ。就職・進学ともよい成果として現れた。	
	情報提供の促進	進学や就職の情報を本人や保護者に提示し、周知に努めるとともに、進路指導室・進路資料室やホームルーム教室等に、年次に応じた進路資料等を準備し、活用を図る。	B	各年次に応じた適切な情報提供がなされている。各種講演やガイダンスも充実しており、生徒の進路選択に役立っている。	
⑤ 特別活動・ボランティア活動	ホームルーム活動	各年次に合わせた適切なホームルーム活動の主題を設定して、計画的に実施する。	A	各年次で適切な共通主題を設定したり、ホームルーム担任が工夫を凝らした主題を設定したりと、計画的で充実した活動が実施された。	○ホームルーム活動の内容を研究・精選し、より充実した活動になるように今後とも工夫を継続する。 ○生徒の学校行事への取組が一層活発になるように努力する。また、諸行事に主体的・自主的に取り組み、リーダーシップを発揮できる生徒を育成する。
	学校行事・生徒会活動	生徒が学校行事や生徒会活動に主体的・積極的に参加し、教師と生徒が連帯感を持って取り組む諸行事の実施を図る。	B	生徒会役員等が教職員と協力して、生徒を主体とした魅力ある学校行事が実施できた。	○各種の学校行事で、教職員間の連携や協力をより密に行い、学校全体で取り組むという姿勢をさらに進める。
	部活動	生徒の健康面や安全面に留意し、好ましい人間関係の育成などに配慮した運営を図る。	A	心身の健康・安全に配慮した部活動が実施できた。部は、それぞれ目標を掲げ、自主的・積極的に活動した結果、大きな成果を得た。	○部活動によっては、めざましい成果を出し、評価されている一方、生徒によっては参加意識があまり高くない者もいる。部活動をより活性化させ、生徒の学校生活が充実したものになるよう努力する。
	ボランティア活動	ボランティア活動参加数延べ1200名以上を目標に、勤労体験学習や奉仕活動などを積極的に行う。	A	地域で行われる諸行事にボランティアとして積極的に参加し、地域から大いに評価された。就労体験学習も生徒の興味や関心に応じて実施し、その成果も校外に発表することができた。	○VYS部・ユネスコ部を中心に、ボランティア活動等は積極的に進められており、評価もいただいているが、一般生徒の積極的参加についても継続的に働きかける。
⑥ 保健管理	保健活動	学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付け、全教職員が役割を分担して活動できる体制を構築する。	B	学校運営組織の中に保健活動を適切に位置付け、各種の会議や委員会において周知徹底を図った。	○生徒や教職員の心身の健康について、継続的・体系的な啓発に取り組み、その維持と向上に積極的に努める。
	健康管理	健康診断と事後処置を計画的に実施し、衛生委員会等を通じて全教職員の健康への意識の高揚を図る。	B	各種健康診断を学校行事を考慮しながら実施し、衛生委員会は定例の職員会議に合わせて実施することで、教職員の心身の健康への関心を高めている。	○防火・防災訓練を継続して行うとともに、大規模災害が発生した際にも対応できる組織づくりを進める。 ○ゴミの分別について、生徒の意識に課題があると思われる。一人一人が気を配り、実践できるように指導を強化する。
	安全・衛生・清掃美化	美しい環境づくりと、ゴミ分別の取組をはじめ、学校の教育活動全体を通して、生徒への安全や衛生に関する意識の高揚を図る。	B	防火・防災訓練を適切に実施することで、教職員や生徒の安全に対する意識を向上させた。日々の清掃活動を充実させたり、奉仕活動に積極的に取り組ませたりすることで美化意識の向上を図った。	○清掃への取組姿勢に温度差がある。校内美化の意義ややりがい等について指導を継続する。
⑦ 人権特別・支援教育	教職員研修	全教職員が人権・同和教育及び特別支援教育についての意識を高め、指導の力量を身に付けていくための研修を実施する。	B	教職員研修の機会を確保し、現職教育の充実を図ることによって、人権問題解決への確固たる姿勢の確立とともに、人権意識の高揚に努めている。	○事前学習や事後の振り返りを充実させることで、ホームルーム活動がより実効性のあるものとなるよう工夫する。
	生徒の主体的な取組	各種の学校行事や人権委員会の活動を通して、生徒の主体性を育みながら人権意識の高揚を図る。	A	市内県立学校の人権委員との合同研修会やフィールドワークを実施するなどして、人権委員会の自主的主体的な活動を育み、ホームルーム活動の充実や文化祭等での啓発に努めた。	○ホームルーム活動において、人権委員の活動の場を設定し、啓発活動が活発化するよう努力する。 ○本年度、東予地区人権・同和教育研究協議会が本校で実施され、人権意識の高揚が図られたが、一過性のものにならないよう継続して研究と実践に取り組む。
	進路保障	様々な困難な条件下にある生徒に対して、家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら進路保障の徹底に努める。	A	特別支援教育や個別指導を充実させ、家庭・地域・関係機関等との連携を密にすることで、困難な条件下にある生徒に対して進路保障の徹底に努めている。	○特別支援教育について、校内で共通理解を図り、合理的配慮が必要な生徒に対して適切な支援が行えるようにする。
⑧ 図書・研修	現職教育	教育公務員としての自覚と使命感の高揚に資する研修等、必要な研修を必要な時期に必要な対象者が受けられるように情報を周知するとともに、計画的に実施する。	B	教育公務員としての使命感と教育愛を持って職責を果たすとともに、服務規律の徹底に努めている。	○今年度、積極的に校内研究授業が実施された。教員個人としても、教科としても授業力の向上に欠かせない研究授業を継続して行う。 ○教育公務員としての資質・能力の向上を図るよう自己研修に励むとともに、校内外の諸研修への積極的な参加を促す。
	教科指導の充実	全教科で授業の研究等を実施し、授業を校内や地域に広く公開することで、教員の指導力や生徒の学習活動の向上に努める。	B	校内での各種研修会や研究授業を計画的に実施することにより、授業等の指導力向上に努めている。個々に各種研修会に参加することで研究と修養に努めている。	○「朝の読書」について、効果的な方法を研究する。 ○図書委員会の活動をより活性化し、図書館の利用を促進させ、貸出冊数の増加を図る。
	読書意欲の向上	図書館の環境を整え、読書への興味・関心を高める活動を充実させ、図書館の利用者数や貸出冊数の増加を図る。	B	図書委員会の活動を活性化し、生徒のアイデアを取り入れた、明るく利用しやすい図書館づくりに努めている。広報活動の充実・指導の工夫により、貸出冊数の増加に努めている。	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方針（意見）
⑨ ICT	機器の整備と活用	視聴覚・情報機器・校内LAN等を整備し、積極的に活用する。また、活用方法等を研究するとともに、適宜、校内での研修を行う。	B	電子黒板やWi-Fiの積極的な活用を図り、授業改善に取り組んでいる。今後、ICT機器の活用は不可欠であり、教員も個々に研究に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器の積極的な利用を促し、授業改善につながるよう教員一人一人が努力する。</li> <li>○ICT機器やその活用方法について、様々な情報を収集し、校内で共有できるようにする。</li> </ul>
	ホームページの整備と活用	ホームページの更新回数を増やすことでタイムリーな学校の情報を発信し、学校の紹介を強化する。	B	学校行事や部活動の様子などを積極的にホームページにアップしている。今後、ホームページをスマートフォン閲覧にも対応できるように改善・改修に取り組んでいきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページの更新頻度を上げ、内容の充実を図るとともに、スマートフォンでの閲覧に対応できるよう改善する。</li> </ul>
⑩ 教育相談	教育相談の周知徹底	「教育相談だより」を学期に1回発行し、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	A	教育相談便りを定期的に発行することで情報発信に努めている。スクールライフアドバイザーや関係機関と連携することで、教育相談環境の充実にも努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○充実しつつある教育相談について、生徒も教員も気軽に行ける雰囲気づくりをより一層進める。</li> <li>○「教育相談便り」の充実を図り、情報提供をより進めていく。</li> </ul>
	生徒の状況把握	各年次主任、ホームルーム担任、スクールライフアドバイザーとの連携を密にして、生徒の状況把握に努め、必要であれば早期に対応する。	A	教員とスクールライフアドバイザーが密接に連携することで、生徒状況の把握に努めている。「いじめ等に関するアンケート」の実施により、状況把握と早期対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な教育的ニーズのある生徒にも対応できるように、教職員の校内研修等を充実させる。</li> <li>○生徒を理解したり、支援したりする上で、家庭との連携が密にできる体制づくりに努める。</li> </ul>
	教職員間の情報交換	問題や悩みを抱える生徒や保護者について、連絡会を設けるなどして、教員間の共通理解に努める。	B	各年次団・教職員・管理職との間で情報共有・共通理解する体制はできている。今後、生徒や保護者からの情報収集や相談受付が充実するよう努力している。	
⑪ 保護者との連携	保護者への情報提供	南高通信やPTA通信の発行、保護者懇談会や家庭訪問などの実施によって、学校での生徒の状況が保護者によく分かるように情報の提供に努める。	B	南高通信、PTA通信、進路便りなどを定期的に発行することで、学校や生徒の様子を発信するよう努めている。ホームページの充実と併せて、効果的な方法を研究していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「南高通信」等をより充実させることで、学校の様子や生徒の活動の様子を保護者に細かく知らせよう努める。</li> <li>○ボランティア活動の輪を広げ、より多くの生徒が自主的に積極的に参加できる仕組みを構築する。</li> </ul>
	地域との教育活動	地域の行事に積極的に参加・協力したり、地元中学校や公民館等関係諸機関との交流を積極的に行ったりすることで、地域に生き、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	A	新居浜特別支援学校と連携した諸行事を実施したり、地域からのボランティア参加要請に積極的に応えたりすることで、地域との連携を深め、地域に生きる自覚を醸成した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員も地域の一員であるという意識を持ち、地域の諸行事に積極的・主体的に参加する。</li> </ul>
⑫ 総合学習・キャリア教育の推進	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」・「ライフスタディⅠ・Ⅱ」に主体的に取り組ませることで、望ましい職業感や就労観を育む。	A	企業訪問・上級学校訪問・就業体験学習など、地域や関係機関と連携し各種行事を実施できた。学習の成果を広く発表することで、生徒の表現力や情報発信力を育成することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「産業社会と人間」「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ」に生徒は積極的に取り組んでいるが、発表会に参加していただく保護者や地域の方が少ない。広報や周知の方法を工夫して多くの方に見ていただけるよう努力する。</li> </ul>
⑬ 事務管理	親切的な対応	来訪者及び電話への対応を親切かつ丁寧に行うことで、生徒や保護者、関係者からの信頼を得ることができるよう努める。	A	生徒・保護者・地域の方々・その他来校者に対して、親切かつ丁寧な対応を行い、関係者から一定の評価を得ていると考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電話応対や来訪者への対応について、引き続き、丁寧に親切な対応を心がける。</li> <li>○生徒の安全や健康に配慮しながら、教育環境等の維持改善に努める。</li> </ul>
	適切な事務処理等	経費の節約に努め、適正かつ能率的な事務処理を行うとともに、施設や設備の適切な管理運営を行うことで、学校の教育活動の効率化を図る。	B	必要な部分と節約できる部分のメリハリを付け経費削減に努めている。適正で能率的な事務処理を心がけ、施設・設備の管理を適切に行うことで、安全環境の維持に努めている。	

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。